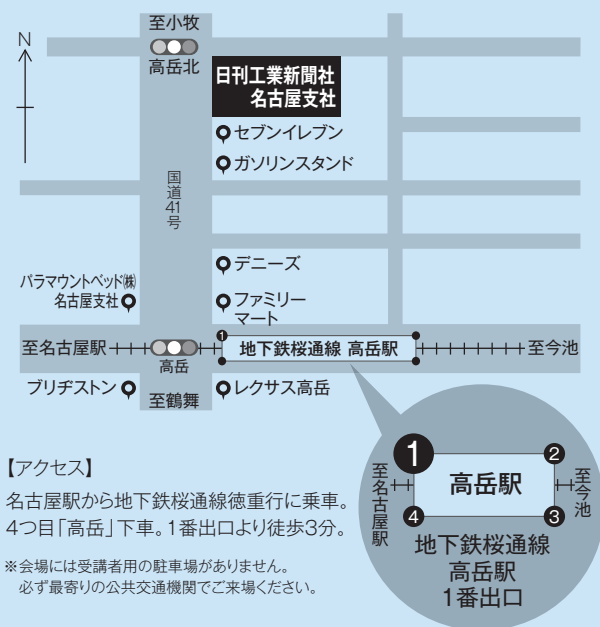


～「人手が足りない!!」「職場が回らない!!」を部署内で解決する～ 設計部門の業務量平準化による 人手不足解決方法

業務量アンバランスを「見える化」→ 平準化 → 人員捻出 → 人手不足解決!!

日時	2024年10月4日(金) 10:00~17:00 (9:30 受付開始)	※昼食のご用意がございませんので、ご準備いただくか休憩時間内に外食いただきますようお願い申し上げます。(休憩時間の会場内飲食は可能)
会場	日刊工業新聞社 名古屋支社 セミナールーム 名古屋市東区泉2-21-28	
受講料	46,200円(資料含む、消費税込) ※日本金型工業会、中部プラスチック連合会の正会員の方は15%割引とさせていただきます。	

日刊工業新聞社 名古屋支社 会場案内図



受講にあたり

開催決定後、受講票並び請求書をメールで送付いたします。
※必ずメールアドレスをご記入いただきますようお願い申し上げます。
申込者が最少催行人数に達していない講座の場合、開催を見送りとさせていただきます。(担当者より一週間前を目途にご連絡致します。)

お申し込み方法

ホームページ (<https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search>) または、下記申込書をご記入のうえFAXにてお申し込みください。

受講料

セミナー開催日までに銀行振込にてお支払いください。
振込手数料は貴社でご負担願います。

キャンセルポリシー

開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。

申込・問合せ	日刊工業新聞社 名古屋支社 イベントG TEL 052 (931) 6158 (直通) FAX 052 (931) 6159
---------------	---

受講申込書	10/4 設計見える化		お申し込みは <input type="text" value="日刊工業 セミナー"/>	<input type="text" value=""/>
			https://corp.nikkan.co.jp/seminars/search	
会社名	フリガナ		E-mail	<input type="text" value=""/>
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL	<input type="text" value=""/>
所在地	〒		FAX	<input type="text" value=""/>
業種	備考		<input type="checkbox"/> 日本金型工業会正会員 <input type="checkbox"/> 中部プラスチック連合会正会員	

開催主旨

『パレートの法則』の通り、放っておけば仕事の8割は仕事のできる2割の優秀な設計者（間接員）に集中します。その結果、**優秀な設計者**は慢性的に過重労働を強いられ、メンタル不全を発症したり、会社に見切りをつけて転職してしまいます。その結果、御社はその未来を担う優秀なエース設計者を喪失することとなります。

以上は**設計者間の業務量アンバランス**に起因する悲劇ですが、他にも**月間・部署間の業務量アンバランス**が存在し、設計者には過重労働、会社には残業・休日出勤による超過勤務手当発生、という形で経営にダメージを与えています。

そこで当セミナーでは、業務量の平準化によって労働生産性を向上し、捻出した余剰人員により人手不足を解決する方法についてお教えします。具体的には、a.業務の実態の数値データ（投入工数）による「見える化」、b.業務量アンバランス（設計者間・月間・部署間）の**平準化**、c.平準化を実現する**システム**の構築、の3つです。

講義では、業務量の平準化だけで労働生産性を**4.9%も向上**させ人手不足を解決した某社設計部門の事例紹介および演習を交えつつ、御社でも実施できるよう分かりやすく説明します。費用が掛からず効果は絶大かつ即効性に優れる当手法は**人手不足問題解決の決め手**です。その真偽のほどは、当日あなた自身の目でご確認ください。

（注.1）演習時にExcelの入ったノートPCがあると便利です（ない場合はシートで対応）

（注.2）部署業務の全体像が分かる文書（組織機能図、業務分掌規程等）を持参されると、演習時に役立ちます（なくても可）

受講対象者

人手不足に悩む設計部門の部課長・主任クラス
設計統括部門および業務改革推進部門の部課長・主任クラス

講師

つのかわ まさや
トータルマネジメントシステム研究所 代表 **角川 真也** 氏

【略歴】 中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして間接業務の「見える化」「最小化（ムダ取り+効率化）」「標準化」手法を全社展開、生産性を300%向上させ会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム（ERP）』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ（時間・金額）を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする（「TMS研」でHP検索可）。セミナー開催実績：84回/11年、受講者累計：922名、受講者評価：平均77.8点、著書『R&D部門の働き方改革とその進め方』（技術情報協会刊・共著）

プログラム

1. 業務量のアンバランスを放置し続ける恐ろしさ

- 1) 3つの業務量アンバランス
- 2) 業務量のアンバランス放置が招いた悲劇
 - ①メンタル不全発症
 - ②主力製品の無期限出荷停止処分
- 3) この悲劇から学ぶべきこと
- 4) 業務量平準化はなぜ必要か？

2. 業務量平準化の前にすべきこと

- 1) 設計者の本音の「見える化」
 - ①困りごと
 - ②不平・不満
 - ③会社への提言
- 2) 既得権者（業務量の薄い人）の抵抗勢力化未然防止策
- 3) 業務移管を可能にするシステムの構築
 - ①なぜ業務移管は困難なのか？
 - ②業務移管に要する工数の極小化がポイント
 - ③「マニュアルの三重苦」とその解消方法
- 4) 使える業務マニュアル

3. 業務量のアンバランスを「見える化」する

- 1) 投入工数による部署業務の実態の「見える化」（演習あり）
- 2) 設計者間
- 3) 月間
- 4) 部署間

4. 業務量のアンバランスを平準化する

- 1) 設計者間（演習あり）
- 2) 月間（演習あり）
- 3) 部署間
- 4) 業務量平準化の効果（人手不足解決事例紹介）

5. 質疑応答・アドバイス